

新スタンダード・ネイキッド、今が旬のZ900RSを楽しみ尽くす!
カスタム & メンテナンスを楽しむ決定版!

ヘリテージ & レジェンズ

編集部厳選の
垂涎カスタムマシン!

ザグッドルッキン
バイク

2020
APRIL
Vol.10

ミスターバイクBG 4月号臨時増
Heritage&Legends Vol.10
第35巻第7号2020年4月1日発行

オ・ジャパンスタンダードの
カスタム最新情報!

Kawasaki

Z900RS/CAFE、2年半の軌跡
コンプリートカスタムの魅力

ドライカーワークスが送り出すSZ-019詳細

カスタムを知り深まる走る楽しみ

スピードショップイトウに聞く、セッティング&チューン

バイクスピークを走ったZ900RS

フルサンダーズが振り返る、2018/2019の参戦

カスタムマシン&最新パーツShow UP!
ショップガイド

最新
カワサキ
GPZ900R
パーツカタログ
エンド
して
定書!

春の新タイヤ試乗: プリデストン バトラックスRS11

2020シーズン展望: JD-STERドラッグレース座談会

編集部注目製品紹介: グッズフロントライン

Z900RS SZ-020

ホイール&サスをオプション化し さらに自由度を高める

TIRE: PIRELLI SUPERCORSA SP [F]120/70ZR17・[R]190/55ZR17

2020年新作で、SZ-019/020のベーシックメニューにオプションをプラス。ストライカー・セパレートハンドルとGストライカー・スイングアームは両方装備しリヤサスはオーリングに、ホイールはゲイルスピードをポリッシュした上で履きエンジンカバーはウイリー、アクティブサブフレームも装着。今後フルブラック化を予定



Z900RS SZ-020

ベーシックパッケージにアップハンドルを選択

TIRE: DUNLOP GPR-300 [F]120/70ZR17・[R]180/55ZR17

2020年型のタイガーカラーをベースにベーシックプランでまとめられた1台。ここではGストライカー・スイングアームを選択、ハンドルはハリケーンFATコンドルだが、やや前荷重が増えることなどセッティングでSZ共通の扱いやすさを得ているのもポイントとなっている

商品であるマフラー各種やステップは当然として、セパレートハンドルや立体形状のフェンダーレスキットが続々作られ、それは同時に同店、デモ車にも装着されていた。

Z900RS カスタム TOPVIEW

Z900RSは2017年12月の発売から初期モデルなら2年半近く、手に入れて素性も、オーナー自身がどう楽しむかの方向性もより明確化してきたはずだ。そしてそれに先駆けるように、多くのメーカー/ショップがパーツやサービスを用意している。カスタムの視点からのZ900RS最新事情を知ろう。



STRIKER WORKS ストライカーワークス

パーツ個々の機能にパッケージならではの良さをプラスするコンプリート車展開

カラーズインターナショナルのサービスショップでもあるストライカーワークスが、そのカラーズ製品を中心に19年から送り出すコンプリートカスタム車、SZ-019/020。単にパーツ装着だけでなく、パッケージとしての良さはどう作られているのかに迫ってみる。

「自社で手を入れるべきバイク、それが出発点」
SZ019/020。ストライカーワークスがZ900RSのカスタムコンプリート（SIIストライカー、ZII Z900RS）として送り出す車両に付けられた名称だ。019は19年に、020は20年に作られたものを指す。このSZ、ストライカーワークスの母体となるカラーズインターナショナルがZ900RS登場当初から開発・販売するパーツ群を中心に、新車装着した上で販売される。
「Z900RSはルックスにも魅力を感じる人が多くて、これから手に入れようと思ってる人も含めてユーザーにも、自分の好みで手を入れてみたいと思う人が多い。加えて、登場当初から、これはストライカーとして手を入れるべきバイクだ。そう直感的に思ったのも理由のひとつです」
ストライカーワークス/カラーズインターナショナルの代表、新さんは言う。最近のカワサキ車の中で、アレンジする余地が大きいパーツのルックスや機能でその余地を変えられるし、手にした人はその余地も合わせて長く楽しむだろう。同店が多く扱ってきたセフアーやZRXシリーズのように、中軸となるバイクだ。そんなインスピレーションが走ったという。
「それで発売直後に購入して、実際にどんなバイクか知ろうと乗りこんでいって、これは必要だな」と思うパーツから製作し、リリースしていきました」
ストライカーブランドでの主力

Z900RS カスタムTOPVIEW

Z900RS SZ-019 [No.001]

「SZ」の市販1号機はカスタムプランで製作
TIRE:PIRELLI SUPERCORSA SP [F]120/70ZR17・[R]190/55ZR17



2019年夏に作られたSZ-019の1号機。ベーシックパッケージを元にセパレートハンドル/Gストライカーシングアームの双方を装備。さらに足まわりにフルに手が入る内容でSZ-019の狙う快適性や扱いやすさをより上質化している

オプションはイエローボール塗装やシート(1)の変更、リヤサスのオーリンズ化(2)＋フロントフォークとのオクムラMEチューン、ストライカー・チタンブラックラインEX(3)、MAGTAN JB4ホイールなど。車両との一体感も高い



Z900RS SZ-019 コンプリートの元となったデモ車両

TIRE:PIRELLI SUPERCORSA SP [F]120/70ZR17・[R]190/55ZR17



パーツ開発車でありデモ車でもある1台で、このデモ車からコンプリート車SZ-019の要望が生まれたプロトタイプ/0号車とも言える。ホイールはZ900RSノーマルだがこの状態でノーマルからのアップグレード感は明確に味わえる

ストリートHi (STD:垂れ角ほぼ0)/LowとレーシングHi(垂れ角5度)/Lowの4位置が選べるGストライカーセパレートハンドル(4)やノーマルベースにオクムラMEチューンを施したサス(5,6)等、新さんの考えるZ900RSの機能が作り込まれる



「ストライカーワークス/カラーズインテリナショナルの代表にして元プロライダーの新辰朗(あらた)たつる(こと)さん。SZには新さんのノウハウが凝縮される

「アームは選択制としてます。両方込みにすることも考えましたが、自由度を持たせました。SZの価格は輸入車やSSが比較対象になりますが、買うなら手強い、乗りにくいよりも、気持ちよく乗れるしさらに手を入れる余地もあるこちらを、と選んでもらえるかと」
「ここまで作られた5台は、コンプリートでありつつも自由度も高い。ベーシックプランの内容を元に各オーナーが打ち合わせを経て自由にパーツ(色も、他メーカーの製品も)を選んだというのが、ここに並べた写真からも分かる。」「誰もが理想とする色や形がありますから、そこはできるだけ尊重したい。そのために打ち合わせを重ねて作ります。いいバイクですから長く楽しんでほしいです」
「この話を聞く間にも、次のSZ製作が始まっていた。0号車と言えるデモ車は今後も見られるからぜひ一度触れてみてほしい。」

ストライカーワークスZ900RS カスタムコンプリートマシンSZ-019/020の仕様

①Z900RS SZ-019/020 Basic package

[ベーシックパッケージ]:198万円

- ストリートコンセプト チタンフルエキゾースト 真円サイレンサー チタンヒートカラーorチタンソリッド :19万8000円
- スポーツイーリングコンセプト“STC”ステップキット ブラック :5万8000円
- オリジナルタンデムステップパー BK or SL :1万7000円
- アルミビレットフェンダーレスキット BK or BR :2万2000円
- オリジナルカスタムシート加工(表皮張替え&ロゴ入れ):2万1000円)
- ガードスライダー BK:1万5000円or SL:1万3000円※カーボンは1万円追加
- ラジエーターコアガード :1万9000円

※以下はどちらかを選択※

- G-STRIKERシングアーム バフ仕上げ(18万円) ※セラコート黒仕上げは3万円追加
- G-STRIKERセパレートハンドルキット+アンダーブラケットSET BK or BR (Z2タイプショートミラー込み BL/16万6000円、BR/17万6000円)

※各商品の価格は税別表記。納期:1か月半程度 ※オプションメニュー選択の場合はプラス1か月〜。ベーシックパッケージ内でのカスタムは工賃が無料となっている

②Z900RS SZ-019/020 Basic package +CUSTOM PLAN(カスタムプラン)

※上のベーシックパッケージにプラスして各部にさらに以下のカスタム化を図るプラン。ベーシックパッケージのアップグレードメニューと考えていい

- ボディカラー変更 :プラス8万8000円〜(イエローボール、グリーンタイガーほか)
- EX-STRIKERインターモデル・フルエキゾーストへの変更 :プラス2万2000円/STRIKER TITAN BLACK LINE フルエキゾーストへの変更 :プラス5万2000〜6万7000円
- STRIKERエアロデザインSAD外装 カーボンフロントフェンダー :プラス3万2000円/カーボンリヤフェンダー:プラス3万8000円/カーボンラジエーターサイドシュラウド:プラス2万2000円
- ステップキット カラーオーダーパッケージ :プラス1万2000円
- G-STRIKERシングアーム バフ仕上げ:プラス18万円〜/セラコートBK プラス21万円〜 ※オプションは別途追加
- G-STRIKERセパレートハンドルキット BK(黒):プラス9万6000円/BR(茶):プラス10万1000円
- G-STRIKERセパレートハンドルキット+アンダーブラケットSET/BK(黒):プラス16万1000円/BR(茶):プラス17万1000円
- サンスター・フロントフローティングディスク :プラス6万4000円〜
- プレンボ・ブレーキマスターシリンダー :プラス5万8000円〜 ※タンクステーなど別途必要
- プレンボ・ラジアルマウントフロントキャリパー プラス4万円〜 ※別途ブレーキパッドが必要
- オーリンズ・リヤサスペンション :プラス14万円
- サスペンションチューニング :スクーデリアオクムラ MEチューニング フロントフォーク プラス5万2470円〜/リヤショック :プラス4万9060円〜
- ハイグリップタイヤ(推奨はピレリ・スーパーコルサ) :プラス5万7000円〜

コンプリートマシン 購入特典

- 特製チタンエンブレム コンプリート限定 ● STRIKERオリジナルバイクカバー
- STRIKERステッカーセット

上はSZ-019/020のメニューで、価格は車両込み。①のベーシックパッケージの内容はセパレートハンドルとシングアームの選択制以外はすべてが入る。②のオプションは①に、各項目(ひとつから可)を選んでプラスする。ほか、要望するパーツの手配が可能で完成車として楽しめるのも利点となっている



ストライカーとして重要に思うZ900RS/パーツ。上段左のセパレートハンドルキットは4ポジション選択可で中のステムとともにフロント荷重が稼げる。右のGストライカーシングアームも剛性バランスを最適化。下段、ステップキットは人気商品。右、マフラーは各種用意されるが筒型サイレンサーや、ブラック仕様(エキパイも)がZ900RSでは高人気という

●ストライカーワークス(ストライカーシステムヨコハマが2019年10月に改称) ☎045-949-1347 〒224-0046神奈川県横浜市都筑区桜並木5-7 営:10時半〜19時 休:火水 www.striker-works.com

「元々セパレート」の提案はするつもりでしたが、フロント荷重を増すように考えました。Z900RSのノーマルはアッパー目のバーハンドルで、フロントが少し落ち着かない。そこを落ち着かせようという考えでキット化したんです。シングアームもサスも同じ考えです。複合的に絡んでいきますが、サスも私が乗りこんで、柔ら

かい方向にしようと考えてオクムラに依頼したセッティングです。そのうちパーツが揃うと、コンプリートで売ってほしい、という声が上がって、それも後押しになりました。これまで5台作りました。デモ車や完成したSZ各車に通じるのは、乗った時の身近さと言いか、コンパクト感だ。ぐっとバイクが操りやすくなる。ベーシックプランでももちろん、ホイールなどを変えたオプションメニュー車ではホイール変更の効果も上乗

せさせる感じだ。新さんが、柔らかな、と説明してくれたのは、ただ柔らかいのではない、しっかりとした感覚として伝わってくる。「ベースとなったデモ車も最初からサーキットも走らせてますが、狙いはあくまでもストリートで、幅広いお客さんが安心して乗れること。街中はマンホールあり、路面のうねりや低ミューもあつたりしますが、そんなところに出遭っても不安を抑えることが出来るように意識しました。ツーリングで

も構えず楽に走れるように。でもこのままの状態では私が走って、ソクバサーキットで1分5秒6秒は出せるほどに詰めてますから、まずほとんどの方が満足いくはず。この仕様で5秒切れる方には、別仕様を用意しなければいけないでしょうけど(笑)。そのくらいバランスが取れていますよ。プロライダーとして全日本選手権GP500(91〜93年、YZR500)や同スーパーバイク(94年、YZF750)を走らせ、T

OTでもゼファー1100で1分00秒823(14年)を記録した新さん以上のタイムを出せる一般ライダーは、まずいない。そしてこのセッティングとパッケージは、まさにオールラウンド。この考えがSZの本質でもある。「SZはストライカーの思うZ900RSらしさを表現する。それがコンセプトです。スマートさやカスタム感という見た目でも、機能でもカスタムで安全に安心して走れるバイクに乗ってもらおうということも含んでいて、そこに私たちの経験を加えています」